

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年 11 月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、11 月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

## 魅力発信！えひめ農業NOW(11月)

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁
東予	地域	1	えひめ地域鳥獣管理専門員が連携し、東予地域の鳥獣害対策を強化	1
東予	地域	2	就農初期農業者等を対象に農業基礎講座を開催	1
東予	地域	3	大玉かき「太天」の出荷量伸びる	2
東予	地域	4	新居浜市においてミニ野菜・軽量野菜の少量多品目周年栽培を推進！！	2
東予	四中	5	やまのいも「やまじ丸」を試験掘り！今年度産の収量や品質を確認！！	3
東予	四中	6	「愛」あるブランドやまのいも「やまじ丸」を学校給食でPR！！	3
東予	四中	7	地域農業の発展を目指し、認定農業者・青年農業者が四国中央市長と意見交換！	4
東予	四中	8	第17回四国中央市産業祭で指導班の活動等をPR	4
東予	四中	9	効果的なサルの捕獲に向けて、簡易箱わなの移設を指導	5
東予	四中	10	茶のある新しい生活スタイル提案に向けて消費動向調査を実施	5
東予	産地	11	東予の花木を県内の花屋にPR	6
東予	産地	12	加工用青ねぎ新品種を定植	6
今治	地域	13	「媛かぐや」の収穫・出荷講習会を開催	7
今治	地域	14	「ひめの凜」の葉色による品質評価の可能性を検討	7
今治	地域	15	今治産小麦の消費拡大へ、特産品開発講座を開催	8
今治	地域	16	「今治農業女子」がかんきつ等の販売を学ぶ	8
今治	地域	17	今治地域の鳥獣害対策について岡山理科大学と連携活動始まる	9
今治	しまなみ	18	上浦地区の早期復興へ関係機関が意見交換	10
今治	しまなみ	19	かんきつの施設栽培意向調査の実施	10
今治	産地	20	将来の消費拡大を見据え、大学生のオリーブ収穫体験を実施	11
今治	産地	21	醸造用ぶどうの安定生産に向けて、栽培指針の見直し協議	11
中予	地域	22	研修生に土着天敵利用方法等を現地研修	12
中予	地域	23	なす新規生産者の確保に向けて	12
中予	地域	24	花き花木流通動向聞き取り調査	13
中予	地域	25	農業法人が「農福連携」で年間を通じた作業委託を検討	14
中予	地域	26	「施設外就労（農作業）促進会」の開催	15
中予	地域	27	青年農業者と新規就農予定者との交流会を開催	16
中予	地域	28	中島でICTを利用した囲いわなによるイノシシの捕獲実証に取り組む	17
中予	伊予	29	中山栗モデル園8月の長雨でも好成績	18
中予	伊予	30	中山栗プロジェクト会議を開催	18
中予	伊予	31	媛かぐや出荷巡回	18
中予	伊予	32	集落営農組織のさといも収量調査	19
中予	伊予	33	集落営農組織等でスクミリンゴガイとさといもの研修会を開催	19
中予	伊予	34	一次産業女子さくらひめのメンバーが就農相談者を園地で受け入れ！	20
中予	久万	35	農業公園研修生がGAPについて学ぶ	21
中予	久万	36	中国四国地区意見発表で久万高原町青年農業者が最優秀賞に輝く！	21
中予	久万	37	農業の魅力発信のための写真撮影会を実施	21
中予	産地	38	さくらひめ鉢物栽培セミナーを開催	22
中予	産地	39	夏季出荷を担った砥部町広田地区パクチーの出荷反省会を開催	22
南予	地域	40	「第1回南予農業見学会」を開催し、農業法人の取組や農業の魅力を紹介	23
南予	地域	41	高級菓子用くり・かきは生産予想を超える出荷	23
南予	地域	42	広見川の濁水改善に向けて愛媛・高知の関係者が意見交換！	24
南予	地域	43	JAえひめ南や宇和島市と連携した担い手確保・育成対策の充実に向けて	24
南予	地域	44	宇和島市津島町の農業と食文化を小学生に伝承	25
南予	地域	45	いちごの効率的な防除法について講習会を実施	25
南予	鬼北	46	EU加盟国へのゆず輸出に向けて	26
南予	鬼北	47	新規就農者向け簿記講習会を開催	26
南予	鬼北	48	ももの早期成園化を目指し、新たな生産者が排水対策に取り組む！	27
南予	鬼北	49	ドローンを使った農地の管理状況を調査	27
南予	愛南	50	ドローン撮影による河内晩柑の密植園確認	28
南予	愛南	51	愛南町の認定農業者、青年農業者が合同研修会開催	28
南予	愛南	52	青年農業者がマコモダケを用いて農業用ため池の水質改善に取り組む	29
南予	産地	53	ゆずの縮間伐による収穫作業の省力効果を確認	30
南予	産地	54	松野町のうめ生産者と新植予定地の状況を確認	31

八幡浜	地域	55	コロナ禍でのみかん収穫 労働力確保で順調に作業が進む	32
八幡浜	地域	56	みかん収穫アルバイトの宿泊施設を整備	32
八幡浜	地域	57	首都圏における愛媛県産温州みかん販売促進に向けたPR動画の撮影	33
八幡浜	地域	58	八西地区青年農業者連絡協議会が西宇和みかんをPR!	33
八幡浜	地域	59	農業高校生がスマート農業技術に熱視線	34
八幡浜	大洲	60	いちご生育促進で収量アップをめざす	35
八幡浜	大洲	61	有望品目のしょうが栽培に手応え!	35
八幡浜	大洲	62	センサーカメラの情報をもとに、新たにくくりわなを設置	36
八幡浜	西予	63	「遊子川地域活性化プロジェクトチーム」が豊かなむらづくり全国表彰で農林水産大臣賞を	37
八幡浜	西予	64	鳥獣害防止対策の見回り活動で被害防止の認識を高める	37
八幡浜	西予	65	ふるさと料理を後世に伝えていくために	38
八幡浜	西予	66	「南柑20号の浮皮軽減対策」青年農業者のプロジェクト活動を支援	38
八幡浜	西予	67	いちごの現地巡回でIPMへの取組を支援	39
八幡浜	西予	68	普及事業推進協議会で担い手確保等事例調査	39
八幡浜	産地	69	「第4回、第5回南予マルシェ」を八幡浜と宇和島で開催!	40
八幡浜	産地	70	富有柿の香港輸出について意識統一!	41
農産園芸	高度普及	71	環境保全型農業調査研究会にて病害診断の基礎を学ぶ	42
農産園芸	高度普及	72	「ひめの凜金賞プロジェクト」収量・食味スコアを調査	43
農産園芸	高度普及	73	かんきつ基盤整備ほ場で営農開始に向けた技術指導と園地改良技術を実証	44
農産園芸	高度普及	74	「さくらひめ」の閉鎖型システムで育苗した苗の生産力を検証	45
農産園芸	高度普及	75	大洲市で新規導入されたしょうがの収穫調査を実施	46
農産園芸	高度普及	76	いちご高設栽培における培地内の溶液濃度の簡易的な測定方法について検証	47
農産園芸	高度普及	77	普及指導員の流通・経営、6次産業化技術に資するための調査研究会を開催	48
農産園芸	高度普及	78	首都圏流通・販売調査で使用するPR動画が完成	49
農産園芸	企画調整	79	新規採用農業職職員を対象に農業大学校派遣研修を実施	50

## 東予地方局 地域農業育成室

### ■えひめ地域鳥獣管理専門員が連携し、東予地域の鳥獣害対策を強化

- 地域農業育成室は11月2日、地域で活動するえひめ地域鳥獣管理専門員（以下、管理専門員）の専門的な知識や技術等の習得等を図り、効果的な鳥獣害対策を実施するため、第3回「東予地域えひめ地域鳥獣管理専門員連絡会」を開催し、13人が参加した。
- （株）野生鳥獣対策連携センター阿部豪氏を講師に、鳥害対策のうち、主にカラスの生態や効果的な対策、県外で取り組む新技術等について学んだ。また、集落で鳥獣害対策に取り組む優良事例として、四国中央市天満上地区での現地研修を行った。
- 研修を通じて、新たな技術情報の習得や集落が主体となった鳥獣害対策の取組が重要となることなどを再確認し、現地指導に活かすことができる研修会となった。
- 今後は、管理専門員が実施した被害対策指導をまとめた「鳥獣害対策事例集」の作成を予定している。



室内研修で鳥害対策を学ぶ



現地で集落主体の鳥獣害対策について研修

### ■就農初期農業者等を対象に農業基礎講座を開催

- 地域農業育成室は11月11日、東予地方局において青年農業者や就農初期農業者（青年、女性、壮年）等32人を対象に、農業基礎講座を開催した。
- 当日は、長尾農園 長尾正人氏（今治市立花）による「有機農業での土づくりと地域との繋がり」の講演と合わせて、青年農業者連絡協議会の活動状況や、実践班が実施しているプロジェクト活動の事例紹介を行った。
- 参加者からは、「有機農業の栽培技術が理解できた」「有機農業に興味をわき、挑戦したい」「協議会活動が理解でき、今後入会したい」など、様々な意見が寄せられた。
- 当室は、引き続き、就農間もない農業者に対し農業基礎講座等を通して技術支援を行う。



農業基礎講座の様子



活動事例紹介

## ■大玉かき「太天」の出荷量伸びる

- 地域農業育成室は、かき「太天」の品質向上を目的に、摘蕾・摘果講習、園地巡回、実証ほを設置するなど技術支援を行っている。このかきは、果重が550～600gと大玉で市場性が高く「愛」あるブランドに認定され、「福嘉来（ふくがき）」として販売している。
- 今年の栽培面積は6.7haで、10月下旬から出荷が始まり、約68t（昨年対比130%）と出荷量は多くなった。しかし、収穫前の降雨により汚損果の発生が多く正品率が低くなった（数値未確定）。
- 「太天」は、大きな果実ゆえ重さで枝折れが発生するため、今後も棚栽培の導入を推進していく。



収穫直前の太天



「福嘉来」の商標でブランド化



汚損果の発生

## ■新居浜市においてミニ野菜・軽量野菜の少量多品目周年栽培を推進！！

- 地域農業育成室は11月15日、あかがね市の出荷者を対象に、ミニ野菜や軽量野菜の生産振興に向けた栽培講習会を開催し、16人が参加した。
- 当講習会は、少量多品目化により効率的な周年生産を推進するために開催したもの。
- 当室担当者がミニ野菜や軽量野菜の特徴、栽培方法、周年体系の組立て方等を説明した結果、生産者4人が新たに取り組む意思を示した。
- また、11月に同産直市において、実証農家で生産したミニ大根の販売用POPを作成して試験販売した結果、販売は好調であった。
- 今後、新規栽培者等への技術指導を実施するとともに、ミニ野菜や軽量野菜栽培の拡大に向け、消費者に対し食べ方提案を行うなど、販売促進につながる活動支援を行う。



ミニ野菜・軽量野菜の特徴を説明



ミニ大根の販売用POP

## 東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

### ■やまのいも「やまじ丸」を試験掘り！今年度産の収量や品質を確認！！

○四国中央農業指導班は11月1日、寒川農業振興会（会長：宝利義博氏）及びJAうまと連携し、「やまじ丸」の試験掘りを実施。その結果、今年度の予想収量は、2,508kg/10a（昨年比155%）、有利販売できる秀品・優品率は76.9%（昨年比10ポイント増）、芋平均重は491g/個（昨年比152%）と、良好であった。

○また、24日には、JAうまと連携し、マルチ栽培者10人との検討会を開催し、14か所のほ場を試験掘りした。その結果、予想収量は2,397kg/10a、秀品・優品率は81.6%、芋平均重は502g/個と良好であった。農家からは、「マルチにより除草作業や稲わらの確保が不要となり、労働負担が軽減できるので、早急にマルチ栽培技術を確立し、面積減少を食い止めていこう」との意見があった。

○当班では今後もJAと連携し、省力化や高品質化につながるマルチ栽培を推進し、地域特産「やまじ丸」の生産振興を支援する。



マルチ栽培検討会



会員による掘取り作業

### ■「愛」あるブランドやまのいも「やまじ丸」を学校給食でPR！！

○四国中央農業指導班は11月29日、四国中央市やJAうま等と連携し、「愛」あるブランド産品「やまじ丸」の認知度向上のため、土居中学校生徒にPR活動を行った。

○山の芋部会長 萩尾久美男氏が1年生3クラスの教室で実際に芋をすりおろし、特徴である芋の粘りを見せながら、「やまじ丸」の特徴や食べ方等PRを行った。

○生徒からは「初めてご飯にかけて食べたけど、粘りがあっておいしい」「説明を聞いてやまじ丸を作る大変さがわかった」等の意見があった。

○当班では今後も関係機関と連携し、学校給食等を通じて地元消費者にPRし、「やまじ丸」の認知度アップに取り組む。



給食メニュー「やまじ丸のとろろ丼」



生産者が生徒へ「やまじ丸」をPR

## ■地域農業の発展を目指し、認定農業者・青年農業者が四国中央市長と意見交換！

- 四国中央農業指導班は11月26日、四国中央認定農業者等連絡協議会（会長：村上豊司氏）及び四国中央青年農業者連絡協議会（会長：脇 純樹氏）による「四国中央市長との意見交換会」の開催を支援し、認定農業者等11名が参加した。
- 市長からは、「さといも『伊予美人』、やまのいも『やまじ丸』のブランド化、茶は『うま茶振興協議会』で一層の振興を目指す。また、農業が発展するよう今後とも支援していく」との説明があった。
- 認定農業者は、担い手や労働力不足の課題解決や、地域農業の維持発展に向け、国や県事業に該当しない小規模機械整備の市単独事業創設等の要望を行った。また、青年農業者は同じく労働力不足を補完できる制度やシステムの整備を要望した。
- 市からは、「要望や提案はすぐには対応できないが、関係機関と情報を共有し、地域の課題が解決できるよう前向きに考えたい」との回答があった。
- 当班では、今後も農業経営の安定や担い手確保のため、市やJAと連携しながら対応策を検討する。



市長と認定農業者等が意見交換

## ■第17回四国中央市産業祭で指導班の活動等をPR

- 四国中央農業指導班は11月20、21日に、四国中央市三島運動公園体育館で開催された同市産業祭において、各組織の取組等を紹介する展示を行い、普及活動をPRした。
- 展示スペースには青年組織や女性組織の活動紹介など、計10枚の大型パネルを掲示した。他にも四国中央生活研究協議会がSDGsに因んだリサイクル商品をはじめ、市の特産品であるさといも・やまのいも等の紹介展示を行った。また、今年度は新たに特設ブースで加工品（いりこや茶等）の販売や就農相談を実施した。
- これらにより、地域農産品や組織活動等の理解促進につながったと推察され、当班は、引き続き農業振興の一助となる活動を継続していく。



当班の展示スペース



特産品の紹介展示

## ■効果的なサルの捕獲に向けて、簡易箱わなの移設を指導

- 四国中央農業指導班は11月17日、土居町上野地区の農業者グループ5人を対象に、中型獣用簡易箱わなの移設指導を実施した。
- この簡易箱わなは、8月に当班が製作指導を行い、農業者によって集落内で設置・運用していたが、10月に実施した集落見回り活動でサルの寄付きが見られなかったことから、今回移設することとなった。
- 当日は、農業者と打ち合わせを行い、集落外のサルの移動経路上とみられる場所に、設置していた簡易箱わな6基全てを移設し、効果的な運用方法（餌付けの仕方や頻度等）や、餌の選び方について指導した。
- 今後は、センサーカメラを設置し映像等を解析することで、地元農業者グループと情報共有を行い、地域への鳥獣害対策指導を継続する。



移設中の箱わな



移設した箱わな

## ■茶のある新しい生活スタイル提案に向けて消費動向調査を実施

- 四国中央農業指導班は11月20、21日、うま茶振興協議会（事務局：四国中央市農業振興課）と連携し、同市産業祭で当協議会の活動等をパネルと動画で紹介しながら茶の消費動向調査を実施した。
- 同調査は、今後の商品化や販路拡大、消費喚起に関する取組を検討するために実施するもので、2日間で来客者100人に、茶の飲用に関する意識・意向を確認した。
- 調査結果からは、幅広い世代で緑茶に次いでほうじ茶が好まれる傾向にあり、食事やティータイム等の飲用頻度が高く、身近なスーパーで購入しやすい価格や量、手軽なティーパック形態が好まれていることが分かった。さらに、市外や県外の消費者は産地銘柄品やメーカー品を購入する傾向に加え、コロナ禍において自宅で過ごす時間が増えたことから、季節感を楽しむ飲用方法や茶菓子との組み合わせを求めていることが見受けられた。
- 今後、当班は、調査結果を踏まえ、コロナ禍での新しい生活スタイルに、茶の需要を見出す商品仕様や新しい販売方法を当協議会へ提案し、令和4年の新茶販売につながる同市茶産地をアピールする。



茶産地PR、茶のある生活提案の展示



消費動向調査の実施



## 東予地方局 産地戦略推進室

### ■東予の花木を県内の花屋にPR

○東予地方局及び今治支局産地戦略推進室は11月2日、今治市と西条市の生産者ほ場で「花屋と花木生産者の交流会」を開催した。

○当日は、松山市のほか今治市、大洲市、西予市の7人の花屋に加え、愛媛花市場、県、農協、生産者の計19人が参加し、生産者からビブルナム・ティナス、ピットスポラム、メラレウカの特徴を説明した後、花屋からは花木の使い方として、20cm程度の短いものでもアレンジ可能との提案を受けるなど、販売促進策の検討を行った。

○また、母樹園では花屋に対して、有望7品種のアンケートを実施した結果、ふ入りや葉の縁取りなど特徴のある多くの品種で高評価を得たことから、今後、生産者の意向も踏まえ新たな品種の導入に反映させることとしている。



花屋と生産者がほ場で交流

### ■加工用青ねぎ新品種を定植

○産地戦略推進室は11月29日、JAえひめ未来青ねぎ部会での抽苔抑制の実証を開始した。

○これは、この時期に定植する青ねぎが春先以降、抽苔（ねぎ坊主）によって、硬化や食味低下が生ずることから、抽苔時期が遅いとされる新品种「春京香」を定植し実証するもの。

○同品種は10月13日に播種し、部会長のハウスで育苗していたもので、当部会の主力品種である「緑秀」と比べ育苗中の生育はやや遅かったものの、部会長は、「他の品種と比べ、抽苔の時期や収量、品質などの違いに興味がある」と期待を寄せていた。



ほ場への定植作業

## 今治支局 地域農業育成室

### ■「媛かぐや」の収穫・出荷講習会を開催

- 地域農業育成室は11月8日、JAおちいまばり及び県農林水産研究所と連携して、愛媛県オリジナルさといも品種「媛かぐや」の生産者6人を対象に収穫・出荷講習会を開催した。
- 講習会では、出荷形態を農家間で統一するための収穫から出荷調整までの作業行程のほか、次年産用種芋の貯蔵方法等について動画を用いて説明した。
- また、今年産は、7月下旬から8月上旬にかけて続いた高温・乾燥や10月以降の高温の影響を受け生育が遅れていることから、収穫は例年より1か月遅れの12月以降に行うよう指導した。
- 今後は、次年度以降の作付面積拡大に向け、セル苗生産講習会を開催するとともに、加工業者等と連携し、「媛かぐや」の更なる需要拡大に取り組む。



動画を用いた説明

### ■「ひめの凜」の葉色による品質評価の可能性を検討

- 地域農業育成室は、県農林水産研究所と連携し、令和3年度「ひめの凜」認定栽培者45人を対象に葉色と玄米タンパク含有率の関係を調査している。
- 相関関係が認められれば、乾燥調製前に品質区分（プレミアム、ハイ、スタンダード）の見当をつけ、生籾を受入れる共同利用乾燥調製施設（コントリーエレベーター等）において品質区分に応じた仕分け乾燥調製を行うことができ、作付拡大に向け大きな後押しとなる。
- 調査は、幼穂形成期、出穂後20日、収穫期に行い、関係性を探ることとしており、結果は、2月頃に開催を予定している令和4年度認定栽培者向け講習会で報告する。
- また、当室では、12月13日から15日にかけて、令和4年産の「ひめの凜」認定栽培者募集説明会の開催を予定しており、引き続き作付面積拡大に向けた取組を進める。



出穂後20日の生育調査

## ■今治産小麦の消費拡大へ、特産品開発講座を開催

- 地域農業育成室は11月9日、今治市生活研究協議会員16人を対象に、県立農業大学校の事業を活用し、さいさいきて屋のキッチンスタジオにて、今治産小麦を活用した特産品開発講座を開催した。
- 当日は、今治産小麦粉を製粉している吉原食糧株式会社から講師を招き、今治産小麦粉の特徴（強力粉でもちもち感があるなど）を学んだ後、餃子の調理実習を行った。
- 調理実習では、餃子の皮に今治産小麦粉を用い、①「焼く、揚げる、ゆでる、蒸す」の異なる調理方法での仕上がりの違い、②今治産の食材との相性を探る試作を行った。
- 参加者からは、「ゆで餃子がもちもち感を一番感じた」「今治産のトマトとブロッコリー、柿と合わせるのもいい」「包まずピザ風にするのも良かった」との感想であった。
- 今後、当室では、今回試作したレシピを広く会員に周知し、今治産小麦粉の消費拡大を進める。



生地の硬さを比較



餃子の皮づくり



試作した餃子 9種

## ■「今治農業女子」がかんきつ等の販売を学ぶ

- 地域農業育成室は11月25日、今治農業女子メンバー5人を対象にかんきつ等の出荷販売に関する知識を学ぶ経営支援講座を開催した。
- 講座では、当室職員が、系統出荷の等級・階級による販売単価の違いや、個人販売の商品の見せ方で単価が異なることから、詰め方の工夫点やPOP表示の重要性を説明した。
- 同メンバーは、それぞれが使用している資材や取扱業者、出荷段ボール箱の底をテープで頑丈にとめる方法やPOP表示の内容など、日頃気にかかっていた様々な情報を交換した。



POPについて説明



メンバーの取組を紹介



箱詰め、袋詰め方法を説明

## ■今治地域の鳥獣害対策について岡山理科大学と連携活動始まる

- 地域農業育成室は、近年、ニホンザルによる被害地域が拡大していることから、その対策について、岡山理科大学獣医学部と連携した取組を進めている。
- これは、今治地域における加害レベルの高い群れを対象に、当室のセンサーカメラを活用した行動調査と、県自然保護課のGPS首輪を用いた行動調査のデータ解析を同大学と協力して行うもの。
- 当室担当者は学生と連携して、11月17日に玉川町で実践している被害防止対策の状況確認を行うとともに、18日には今治市との対策推進について協議したほか、19日にはGPSによる行動調査を実施している業者との現地調査を実施した。
- 当室では、同大学と連携し調査・解析を進め、取りまとめた情報を関係機関や地元へ提供し被害防止対策等を進めて行くこととしている。



被害状況やセンサーカメラによる調査



加害群の行動調査



目撃されたニホンザル

## 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

### ■上浦地区の早期復興へ関係機関が意見交換

- しまなみ農業指導班は、11月22日に平成30年豪雨災害からの早期復興に向けて第3回ワーキングチーム会議を開催し、県、市、JAの担当者21人が出席した。
- 会議では、農村整備課から整備計画と換地に向けた住民説明会の進捗状況、当室からは、「はれひめ」のマルドリ栽培やかんきつの施設栽培、早期成園化と土づくりの説明を行い、今後の取組について協議し意識の統一を図った。
- 当班は、今後とも、関係機関との情報共有を図り、島しょ部における果樹栽培のモデルづくりと早期の営農再開に向けて補助事業の導入を含めた支援を行う。



今後の復興スケジュールを検討

### ■かんきつの施設栽培意向調査の実施

- しまなみ農業指導班は11月10日と16日に、上島町と連携し、かんきつ施設化希望調査を実施し、希望者9人の施設の仕様確認と測量等を行った。
- これは施設化栽培に取り組むことで、特産のレモンの高品質化と周年出荷、「愛媛果試第28号」、「せとか」等主要中晩柑類の高品質化を図り、農業所得の向上を目指すもの。
- 今回の9人の中には、認定就農者3人、新規就農者3人が含まれており、施設整備の負担を軽減するため、上島町は令和4年度の県単補助事業を要望している。
- 当班では、引き続きかんきつ類の施設栽培技術等の指導を通じて新規就農者の定着と経営安定に注力していく。



施設予定地の現地調査

## 今治支局 産地戦略推進室

### ■将来の消費拡大を見据え、大学生のオリーブ収穫体験を実施

- 産地戦略推進室は11月18日、局予算事業「しまなみ産オリーブ特産化促進事業（令和元～3年度）」の一環で、今治明德短期大学調理師専修科の学生・先生17人によるオリーブの収穫体験を実施した。
- 学生は、収穫最盛期を迎えた吉海町の生産団体「ポパイズクラブ」のオリーブ園地において、栽培の講習を受けた後、オリーブオイルの搾油の見学と試飲を行ったほか、農家と学生が3つのグループに分かれて収穫と選果作業を実施した。
- わずか3時間の体験であったが、学生にとってはオリーブ栽培の楽しさと商品づくりの大変さを知る機会となる一方、若い力を得て大幅に収穫作業が進んだことで農業者も喜ぶ結果となった。
- 大学側から「調理師を目指す学生にとって特別な体験になった。予算は大学側で用意するので来年も実施したい」という要望があったことから、オリーブ収穫体験を来年以降も継続していきたい。



生産者と学生による収穫



学生による選果作業

### ■醸造用ぶどうの安定生産に向けて、栽培指針の見直し協議

- 産地戦略推進室は11月29日、昨年作成した醸造用ぶどう栽培指針の見直しのため、栽培技術検討会を開催した。
- 検討会は、「(株)大三島みんなのワイナリー」の栽培担当者のほか、JAや果樹研究センター職員等8人が出席。ワイナリーと当室から今年度の生産概要と実証試験結果を報告後、栽培指針の見直しについて意見交換を行った。
- 今年は着花の少なかった園地が多く、また8～9月の多雨により病害果が多発し、目標としていた収量が確保できなかったことから、次年度の指針に「摘房による着果量調整」と「7～8月の薬剤散布」を新たに盛り込むこと等を申し合わせた。



栽培技術検討会

## 中予地方局 地域農業育成室

### ■研修生に土着天敵利用方法等を現地研修

- 地域農業育成室は11月19日、松山市農業指導センター研修生5人を対象に、なす栽培における土着天敵の利用方法やパイプハウスの建設方法について現地研修を実施。
- 研修生は、天敵温存専用ハウスで飼育しているタバコカスミカメの増殖・利用方法や、ソルゴーやオクラをほ場周囲に定植し、選択性農薬を使用することで効率的に土着天敵を誘引・増殖させる方法を学んだ。
- 研修生からは、「土着天敵を利用することで、どのくらい農薬が削減できるのか」「やれることから取り組んでみたい」等の意見が聞かれた。
- 天敵の利用により薬剤抵抗性の回避や農薬の使用削減が見込まれ、当室では天敵利用技術の普及を進めることとしている。



パイプハウスの建設方法を学ぶ



タバコカスミカメの増殖を確認

### ■なす新規生産者の確保に向けて

- 地域農業育成室は11月17日、松山市農業指導センターで開催された「松山長なすをつくろやセミナー」（松山長なす担い手プロジェクトチーム主催）において、「ここで差がつく！栽培の新技术」と題して、栽培管理の「見える化」や「天敵利用技術」を紹介した。
- 当日は、なす栽培に関心のある生産者13人が出席し、pFメータを用いたかん水方法やコンパクト硝酸イオンメータによる追肥判断について学んだ。
- 当室では引き続き、関係機関と連携し、なす新規生産者の確保に努める。



熱心に受講する参加者

## ■花き花木流通動向聞き取り調査

- 地域農業育成室は11月4日、松山市の花き小売店に昨今の花き花木の流通動向等聞き取りを行った。
- コロナ禍において、花き花木の家庭消費が増加し、これまでと比べ花きの需要が変化している。花束をドライにする人も増えており「長期的に花を楽しみたい」という傾向と白や青などの寒色系の花束やリース等が人気となっているなど、花き花木のドライフラワーの需要が高まっている。
- 当室は今後、流行やニーズに沿った品目の選定や栽培・収穫・加工等検討し、枝物産地の更なる振興につなげていく。



ドライ、着色加工した  
ドライフラワーの花束



花木のみのリース



## ■農業法人が「農福連携」で年間を通じた作業委託を検討

- 地域農業育成室は11月1日、「農福連携ビジネス推進事業」を活用し、松前町の農業法人「まさきばたけ」と特定非営利活動法人「まこと」との農作業体験マッチング会を開催し、J A・市町職員、関係者ら23人が参加した。
- 当日は、掘り起こしたさといもを親芋、子芋、孫芋に分ける作業と、同法人の経営する観光農園「まんまいちご園」で、いちごの葉かき作業を行った。
- 代表の小林氏からは、「最初は難しいという印象であったが、作業を真面目にやってくれるため、継続して行うことで、丁寧さ、効率、作業量とも徐々に良くなっていくと期待できる」との感想があるなど、利用者の作業内容に納得し、後日、両法人間で受委託契約に至った。
- 同法人では、さといも、いちごの他に、レタス、枝豆、ブロッコリー、ねぎを栽培しており、次年度からは水稻も組み合わせ、「まこと」への年間を通じた作業委託を検討している。
- 当室では、今後も両者の受委託がスムーズに実施できるように支援していく。



作業方法を説明する代表の小林氏



いちごの葉かき作業



さといも愛媛農試V2号の試食

## ■「施設外就労（農作業）促進会」の開催

- 地域農業育成室は11月25日、中予地方局大会議室で「施設外就労（農作業）促進会」を開催し、福祉事業所・J A・地域福祉課職員等20人が出席した。
- 農作業に関心のある福祉事業所を参集する会は初めての試みで、農政課農地・担い手対策室より、県内の農福連携の取組状況や関係事業の説明、当室より、中予管内の農福連携の現場の様子や「今後依頼が見込まれる農作業」と題した動画で説明を行った後、J Aを窓口とした作業受託システムの運用について協議を行った。
- 福祉事業所からは「情報は平等に欲しい」「映像や手順書があれば作業内容が分かりやすい」「室内でできる作業の依頼があるとありがたい」「福祉事業所内の農園の指導を行って欲しい」といった要望のほかに「作業場にはトイレが必要」といった環境整備の話やそれに伴う活用できる事業への質問など積極的な意見交換が行われた。
- また、当日は「農業版ジョブコーチ育成研修会」も開催し、当室職員による「野菜栽培について」、「農作業安全について」の講習を行った。
- 当室では、今回の福祉事業所からの要望や意見を踏まえ、J Aを窓口とした受委託システムの運用やマッチング等に反映させながら農福連携を推進する。



福祉事業所との意見交換



野菜栽培の基礎講座の様子



農作業安全講習に使用した機材

## ■青年農業者と新規就農予定者との交流会を開催

- 地域農業育成室は 11 月 1 日、松山地区青年農業者連絡協議会等と連携し、農業大学校で青年農業者と就農予定者との交流会を開催し、青年農業者 15 人と J A えひめ中央新規就農研修センター研修生 27 人、また助言者として愛媛県農業指導士 2 人、関係者が出席した。
- 本研修会は、松山地区の青年農業者が意見交換を通じて就農予定者の就農・定着を支援するとともに、青年農業者協議会活動等への勧誘及び仲間づくりを図るもの。
- 当日は、愛媛県農業指導士より就農の経緯や経営発展についての発表後、青年農業者と就農予定者等が野菜・果樹別に 5 グループに分かれ、就農予定者の悩み解決に向けて青年農業者・農業指導士、関係者が相談・助言を行った。農地や施設・機械の取得、技術習得等就農予定者からの質問に対し、青年農業者が自身の体験等を踏まえつつ回答したことで就農計画策定の一助となった。交流会終了時には同協議会長より協議会加入の呼びかけもあり、組織発展が見込まれる。当室では今後も中予地域の青年農業者活動の活性化を図るとともに、個々の経営発展の支援に努める。



農業指導士による経営事例発表



就農予定者の質問に対し、回答する青年農業者

## ■中島でICTを利用した囲いわなによるイノシシの捕獲実証に取り組む

- 地域農業育成室は11月18日、中島地区イノシシ被害防止対策連絡協議会「中島本島支部」、愛媛大学と連携してICTを利用した囲いわなによるイノシシの捕獲実証を開始した。
- 実証は、神浦地区で自作した囲いわなに(株)アイエスイー製の扉と侵入センサーを設置して「ロボットまるみえホカクン」として捕獲に取り組んでいる。
- 餌付けは、温州みかんを使用して行い、囲いわな周辺の餌を食べに来ているイノシシを3頭確認している。
- 当室は、継続的に支援を行い、ICTを利用した囲いわなによるイノシシの捕獲の実用性について検証する。



囲いわなの全景

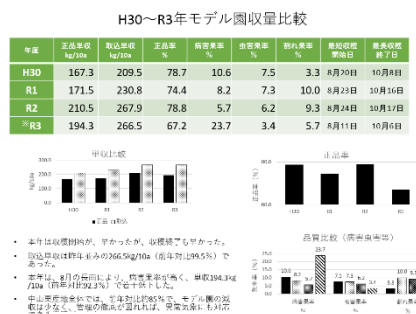


囲いわなの近くに出没している  
3頭のイノシシ

## 中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

### ■中山栗モデル園8月の長雨でも好成績

- 伊予農業指導班は、昨年度終了した局事業で実証したモデル園の指導を継続している。
- 本年度も、くりの出荷が終了したので、収量データの集計を行った。
- 8月に長雨があり、病害虫等の発生により、中山栗全体の出荷量は、101 t（前年対比82%）と大幅に減少した。
- 一方、モデル園では、正品単収 194.3 kg/10a（前年対比92.3%）で若干の減少はあったものの、管理の徹底が図れば、異常気象にも対応できる実証ができた。
- 当班では、この成果を、J A えひめ中央栗部会や中山町認定農業者等へ周知し、安定生産を推進していく。



モデル園収量調査の結果

### ■中山栗プロジェクト会議を開催

- 伊予農業指導班は11月10日、伊予市農業振興センターにて、中山栗プロジェクト会議を開催した。
- 本年度も、12月3、4日に、西予市城川町よりくり剪定の匠を招き、剪定講習会を開催することを決めた。
- また、本年の8月の長雨により、出荷量が大幅に減少した中山栗産地の中で、モデル園は比較的影響が少なかったことを報告し、栽培管理の徹底の重要性を生産者に啓発していくこととした。
- 今後、当班は、この会議を通じ、一層の中山栗産地振興を図っていく。



プロジェクト会議

**中山栗プロジェクト会議：中山栗の産地振興を図る目的に局事業終了後も継続して開催。  
伊予農業指導班を中心に関係機関、部会、農業者等で構成。**

### ■媛かぐや出荷巡回

- 伊予農業指導班は11月12日に、農林水産研究所、ファーマーズマーケットいよっころと連携し、初めて県育成品種さといもの「媛かぐや」導入農家5戸の巡回を実施した。
- この巡回は、生育状況と出荷時期を指導する目的で実施した。
- その結果、数名が11月末に収穫し、12月10日前後に出荷することとなった。
- 当班では、販売時に、ファーマーズマーケットいよっころにて、販売促進活動を実施する。



生育・出荷時期検討

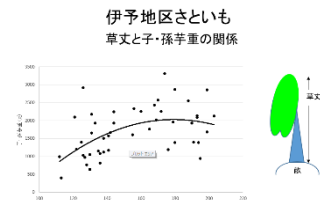
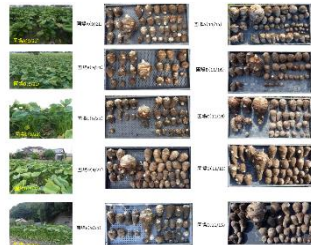
## ■集落営農組織のさといも収量調査

- 伊予農業指導班は11月15、16日、管内集落営農組織のさといも収量調査を実施した。
- 近年、伊予管内の集落営農組織は、収穫期間が長く、単価が安定しているさといもが導入され、面積拡大している。
- 当班では、個々の生育・収量調査を実施し、基礎データの収集を行った。
- 生育・収量格差が大きく、技術の平準化が必要であり、毎年この調査を実施し、伊予地区にあった栽培管理の確立を図っていく。

(産地別) 伊予地区

二毛作区	生育				収穫			
	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育	生育
A	126	126	4.7	36	36	3.5	1,871	1,871
B	124	99	3.8	32	49	4.8	1,847	1,847
C	127	129	3.2	32	38	3.2	1,811	1,811
D	127	97	4.5	45	22	2.2	1,811	1,811
E	125	149	4.4	58	48	4.7	1,811	1,811
F	122	147	4.7	58	54	4.9	1,811	1,811
G	126	141	4.4	41	47	2.8	1,811	1,811
H	124	142	4.5	46	45	2.9	1,811	1,811
I	144	126	4.1	47	41	4.9	1,811	1,811

※生育・収穫の生育は、生育日数(生育日数)で示す。生育日数は、生育日数(生育日数)で示す。



地上部・収量調査結果

収穫芋の状態

伊予地区さといも草丈・収量の関係

## ■集落営農組織等でスクミリンゴガイとさといもの研修会を開催

- 伊予農業指導班は11月26日、管内集落営農組織ら40人を対象に、スクミリンゴガイとさといもの研修会を実施した。
- 近年、管内ではスクミリンゴガイによる稲の食害が多発しており、特に昨年は甚大であったことから、昨年の研修では、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構の松倉啓一郎上級研究員を招き、基礎知識や防除手法を学んだ。
- それを踏まえ、今年度は管内二毛作体系に適合し、効果の安定した防除手法の確立のため実証ほ試験に取り組み、ほぼ全てのほ場において被害は半減した(全国的にも、例年に比べて冬季の平均気温が低く、被害は少なかった模様)。
- 今回も引き続き同研究員が来県し、現地巡回視察の後、結果考察や今後の展開方向について講義を行い、来年度の実証ほ試験は、特に良好な結果だった2、3手法の精度を上げ、効果の安定を図る方向となった。
- 続いて、管内で栽培面積が年々増えているさといもについて、農林水産研究所の浅海室長が基礎知識や各作業の機械化等について講義を行った。
- さといもの栽培は、水田を利活用した高収益作物として、生産者の意欲は年々上がっていることから、当班では巡回指導に加え、今年度実施している収量調査等も生かし、管内にあった栽培技術の構築とその波及を図っていく。



実証ほの現地巡回 (農業者聞き取り)



さといも研修会

## ■一次産業女子さくらひめのメンバーが就農相談者を園地で受け入れ！

- 伊予農業指導班は11月22日、一次産業女子さくらひめメンバーの就農体験受入れを支援した。
- 10月に行われた「えひめオンライン移住フェア」の相談者が、就農準備のため来県しており、対応したメンバーと交流したいとの希望から実現した。
- 当日は、メンバーが育てた果実を利用した食農体験や、かんきつ類の収穫体験を行うほか、女性一人での就農についての相談を行った。
- 相談者からは、「覚悟をもって就農する必要があるが、就農が楽しみになった」「手厚い支援を活用して、就農に向けてひとつずつ進めたい」、対応したメンバーからは、「助けてくれる人はいる。周囲との繋がりを大切にしてほしい」といった声が聞かれた。
- 相談者は来年春頃に移住予定。さくらひめメンバーとの交流を重ねて、メンバーへの加入を進める。



食農体験（くり、かき、ゆず等）



収穫体験（手前：相談者、奥：さくらひめメンバー）

## 中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

### ■農業公園研修生がGAPについて学ぶ

- 久万高原農業指導班は11月12日、久万農業公園の研修生4人を対象にGAP研修会を実施した。
- 当日は、県庁農産園芸課職員を講師に、GAP理解度測定・アンケートを実施した後、GAPの意義や取組手順といった基礎知識を学んだ。
- 研修生からは、「GAPは認証を取らなければいけないと思っていた」「普段行っていることを整理し、記録することが大事だと知った」などの声が聞かれた。次回は12月上旬に具体的な取組内容事例等を学ぶ予定。
- このほか、土壌調査法実習や農業簿記の基礎講座などを予定しており、当班は引き続き、研修生の技術・経営力向上に向けた支援を行う。



GAPについて学ぶ研修生

### ■中国四国地区意見発表で久万高原町青年農業者が最優秀賞に輝く！

- 11月11日、「中国四国地域若い農業者のつどい」がオンラインで開催され、久万高原農業指導班が活動を支援している久万高原町青年農業者連絡協議会員が最優秀賞を受賞した。
- 最優秀賞を受賞した山路氏は大阪府出身で、平成31年から2年間、久万農業公園でトマト栽培研修を受けて今年度就農したばかり。発表では就農までの経緯や研修中の苦労、将来への想いを熱く語った。
- 当日は、当班会議室に青年農業者らが集まり、皆で応援しながら視聴した。
- 山路氏は来年3月上旬に開催される「全国若い農業者会議（現段階ではオンライン開催）」で発表する予定であり、当班は引き続き青年農業者の活動を支援していく。



最優秀賞を受賞した山路氏

### ■農業の魅力発信のための写真撮影会を実施

- 11月19日、久万高原農業指導班が活動を支援している久万高原町青年農業者連絡協議会が、フォトブック作成のための撮影会を実施した。
- これは、自分たちの活動や地域農業の魅力を発信し、新規就農者を呼び込む活動の一環で実施したもので、当日は会員11人が集まり、プロカメラマンの指示のもと、久万高原らしい景色の良い場所で撮影した。
- 参加した青年農業者からは「出来上がった冊子を見て、農業に興味を持ってもらい、久万高原で共に農業ができればうれしい」と話した。同協議会員は、大半が町外からのIターン就農者でトマトを栽培している。
- 出来上がったフォトブックは、就農相談会などで配布し、後継者組織の活動PRに活用する予定。当班は引き続き青年農業者の活動を支援していく。



展望台での集合写真撮影



## 中予地方局 産地戦略推進室

### ■ さくらひめ鉢物栽培セミナーを開催

- 産地戦略推進室は11月4日、農林水産研究所花き研究指導室と連携し、さくらひめ鉢物生産者14人を対象に、生産技術の向上と市場・消費者ニーズの把握を目的とした「さくらひめ鉢物栽培セミナー」を開催。
- セミナーでは、当室担当者から第1回市場・消費者ニーズ調査の結果について報告し、花き研究指導室から、鉢物に適した草姿にするための作型別の摘心方法等について説明した。
- また、(株)姫路生花卸売市場の担当者から、さくらひめの需要動向についてリモートで講演。「さくらひめは需要もあり売れる商品と考えている。しかし、知名度が低い。農家自らSNS等を活用し、ブームを作ってもらいたい」と課題提起もあり、講演後の意見交換では、生産者から、品質や市場の評価等について、多くの質問があった。
- 生産者からは「摘心栽培で、よりボリューム感のあるさくらひめを栽培したい」等と意欲的な声が聞かれ、当室では引き続き、花き研究指導室等と連携し、さくらひめ鉢物の高品質化、産地化を推進する。



ハウスで情報交換を行う参加者

### ■ 夏季出荷を担った砥部町広田地区パクチーの出荷反省会を開催

- 産地戦略推進室は11月17日、JAえひめ中央と連携し、広田地区のパクチー生産者5人を対象に、2期目となる当地区の夏季生産の課題等を検討する「パクチー出荷反省会」を開催。
- 会議では、当室担当者から、春先に発生したとう立ちによる品質低下の要因と改善方法等、今年産の栽培上の課題や改善点について説明し、JAから、夏季販売の実績や市場の評価等について報告した。
- 今年産は、新型コロナウイルスの影響による価格低迷の中でも、精算金額が昨年比369%と大幅に伸び、来年産に向け生産者の意欲は高揚している。
- 広田地区の夏季生産は、地域間連携による周年安定生産の要であることから、当室では引き続き、来年の夏季生産に向けた栽培方法の検討や新たな生産者の掘り起こし等を行い、周年安定生産体制の確立を図る。



周年出荷の要！夏季のパクチー

## 南予地方局 地域農業育成室

### ■「第1回南予農業見学会」を開催し、農業法人の取組や農業の魅力を紹介

○地域農業育成室は11月9日、東、中予地区の農業高校の進路指導担当教員を対象に、管内の農業法人の取組や農業の魅力を広く紹介する「第1回南予農業見学会」を開催した。

○この見学会は、農業高校の教員が農業法人を訪問し、生産販売の様子や従業員の生活環境等を実際に体感し、進路指導に役立てることを目的に、局予算事業「南予産業魅力発信支援事業」で実施しているものであるが、新型コロナウイルスの感染状況等を踏まえ、リモートで実施。



宇和島市の農業法人と東・中予の農業高校が意見交換

○当日は、宇和島市の2法人がこの見学会用に制作したPR動画を活用しながら、生産や職場の様子など企業紹介を行った。参加した教員6人や生徒からは、「南予地域の農業法人の情報はなかなか得ることが出来ないため貴重な機会となった」「第2回もぜひ参加したい」との感想があった。

○当室は、この取組を通して南予農業の魅力を発信し、若者の南予地域への就農定住等に繋げていく。

### ■高級菓子用くり・かきは生産予想を超える出荷

○地域農業育成室は11月17日、南予地方局において、関係市町、JAえひめ南、(株)源吉兆庵等で構成する「第2回源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会」を開催し、生産実績や主要4品目(くり・かき・びわ・もも)の生産振興について情報交換した。



源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会

○くり・かきは、8月以降の長雨や高温で外観の優れた果実生産が難しい年であったが、適期防除指導とかきの出荷基準緩和により、予想を上回る出荷があった。

○一方、主要4品目の生産振興では、異常気象や生産者の高齢化などによって、今後は生産見通しが立てにくくなることも予想されることから、ももの追熟やかきの軟化軽減等品目ごとの技術対応に取り組むとともに、安定供給に向け長期的な視点で産地化を推進することを確認した。

○当室は、省力・多収技術の確立等に取り組みながら、規模拡大や新規生産者の確保など生産体制の強化に努める。

## ■広見川の濁水改善に向けて愛媛・高知の関係者が意見交換！

- 地域農業育成室が構成員となる広見川等農業排水対策協議会は11月18日、高知県と農業濁水防止に向けた意見交換会を四万十市西土佐総合支所で実施し、両県の行政、JA、環境保全団体から22人が出席した。
- この会は、水稻の代かき時期に発生する濁水が四万十川の景観に影響を与えていることから、意見交換しながら、より効果的な活動を展開しようと令和元年から毎年開催し今回が3回目となる。
- 当日は、本県から濁水パトロールや濁水流出防止チラシ、止水板の活用に加え、当室が主体となって取り組む石こう資材の実証効果などを報告。
- 意見交換の場では、濁水軽減効果の高い石こう資材散布を普及するため、その経費の負担軽減策や環境保全に配慮した米として付加価値をつけて販売する方法などについて、双方で協力しながら検討していくことを申し合わせた。
- 当室は、引き続き、石こう資材の活用など濁水軽減策の実証や啓発活動等を通じて、地域の環境改善と売れる米づくりをサポートしていく。



意見交換会



本県における石こう資材の実証

## ■JAえひめ南や宇和島市と連携した担い手確保・育成対策の充実に向けて

- 地域農業育成室が事務局を務める宇和島地区農業改良普及事業推進協議会は11月22日、担い手対策の参考とするため、高知県立農業担い手育成センターと黒潮町農業公社の取組状況を調査し、JAえひめ南、宇和島市、当室の担当部課長ら9人が参加した。
- 両施設とも高知県が力を入れている高度な施設園芸技術を新規就農者らに研修させるもので、県と町、JAが連携しながら、産地内で一日も早く自立できるようサポートしており、加えて県費による農業次世代人材投資事業交付金の上積み助成や、受入れ農家・法人への支援金など手厚い支援のもと高い定着率を実現していた。
- 管内では、就農候補者の研修や新規就農者の定着に向けた支援体制構築を目指し、検討を進めているところで、JA、市、県が連携しながら取り組む重要性を再認識したところであり、当室としても、担い手の確保・育成に向けた活動を一層充実させていく。



技術実証と研修を兼ねた県のきゅうりハウス



黒潮町農業公社の取組について聞き取り

## ■宇和島市津島町の農業と食文化を小学生に伝承

- 地域農業育成室は11月25日、宇和島市生活研究協議会と連携し、清満公民館で食農教育推進事業の一環として「えひめ食文化普及講座」を開催した。
- 当日は、宇和島市立清満小学校6年生10人を対象に、当室職員が水稻や大豆など「津島町の農業について」クイズなども交え説明した後、協議会員が講師となり宇和島地域の郷土料理「ふくめん」の調理を指導するとともに、地元の料理や四季折々の行事食の紹介なども行った。
- 参加した児童からは、「ふくめんは初めて作ったけど、使っている材料や作り方がよく分かったので家でも作ってみたい」「農業の話の中にクイズがあって分かりやすく楽しかった」といった感想があった。
- 当室は、今後も生活研究協議会と連携し、将来を担う子供たちへ地域農業や郷土の食について伝えながら、農業と食文化に根ざした食育を進めていく。



農業や郷土料理についての学習



郷土料理「ふくめん」作りに挑戦

## ■いちごの効率的な防除法について講習会を実施

- 地域農業育成室は11月26日、宇和島地区いちご研究連絡協議会員20人を対象に収穫期の栽培講習会を開催した。
- 当日は、経費節減と防除作業時間の短縮を目指した天敵利用によるハダニの防除方法や、萎黄病に効果の高いふすま・廃糖蜜を用いた土壤消毒と不耕起栽培を組み合わせた技術のポイントを説明した。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、長らく栽培講習会が実施できていなかったこともあり、参加した会員からは適切な草丈にするための電照時間や施肥、かん水などの今後の管理について活発な質疑や意見交換がなされた。
- 当室は、講習した内容を個々の栽培に活かせるよう、高品質安定生産に向けて支援していく。



効率的な防除方法について説明

## 南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

### ■EU加盟国へのゆず輸出に向けて

- 鬼北農業指導班は11月2日、24日、ドイツへのゆず生果輸出に向け、植物防疫所、ブランド戦略課らと連携し、収穫果実の表面殺菌と梱包作業を行った。
- 当班職員は、輸出用果実を事前に収穫・選果し、当日、植物防疫所の検査を受けたゆずを、次亜塩素酸ナトリウム水溶液に漬けて表面殺菌後、風乾、拭き取り、乾燥させ箱詰めした。
- 2日に32kg、24日に72kg、合計104kgの当班産ゆずをドイツに向け空輸した。それぞれ約3日後にドイツの日本食スーパーに並び、果実は即日完売するなど、好評であった模様。
- 当班は、今後も適切な栽培管理を推進し、地域の主幹作物であるゆずの安定生産と販路拡大を目指す。



表面殺菌後の果実拭き取り



出荷箱への梱包

### ■新規就農者向け簿記講習会を開催

- 鬼北農業指導班は11月17日、鬼北町担い手総合育成支援協議会、松野町と連携し、公社研修生や認定新規就農者等9人を対象に、農業簿記講習会を開催した。
- 当日は、当班職員が簿記の基本や就農時に必要な書類等について講習した後、ソリマチ(株)の野津山氏を講師に、体験版を活用したパソコン簿記実践研修や令和5年から始まるインボイス制度等についての研修を行った。
- 参加者からは、「就農前に簿記について学ぶことができて良かった」「実際にパソコン簿記に取り組んでみたい」との感想が上がった。
- 当班では引き続き、関係機関と連携し、公社研修生及び新規就農者の育成を図る。



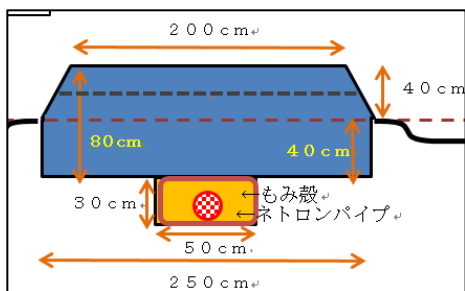
当班職員による講習



パソコンを使用した実践研修

### ■ももの早期成園化を目指し、新たな生産者が排水対策に取り組む！

- 鬼北農業指導班は11月24日、25日、松野町と連携し、新たに排水対策工事に取り組む意向を示した桃生産者に対し、当班が作成したマニュアルに準じた施工方法を指導した。
- これは、平成30年、令和2年に当班が設置したももの排水対策モデル園による早期成園化実証試験の結果を受け、生産者が約10aの生育不良園で新植及び改植に取り組んだもの。
- 当日は、令和2年設置園を参考にもみ殻とネトロンパイプを活用した暗渠、高畝を設置。
- 当班では引き続き、排水不良園の改善、早期成園化指導によるももの安定供給を目指す。



排水対策工事の概要



バックホウによる作業

### ■ドローンを使った農地の管理状況を調査

- 鬼北農業指導班は11月24日、松野町富岡集落の農地の管理状況を把握するため、同集落の担い手組織である「援農会にぎりめし」メンバーや同町と連携し、ドローンを用いて上空からの全域調査を行った。
- 当日は当班職員がドローンの操作を行い、ドローンのカメラからの映像を確認しながら富岡集落の全ての農地を撮影した。
- 参加者からは「上空から集落を見ることは日頃少ないが、農地と河川の関係や利用できそうな農地などの把握ができる」と好評であり、とりまとめができ次第、集落関係者との検討会を実施することとなった。
- 当班は富岡集落における担い手育成を推進するため、集落の環境に合った作物選定や農地の利用促進に取り組む。



ドローンによる全域調査



カメラからの映像を確認

## 南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

### ■ドローン撮影による河内晩柑の密植園確認

- 愛南農業指導班は10月28日、11月1日、河内晩柑の密植園解消を進める新たな指導手法として、JAえひめ南と連携してドローンで上空から園地を撮影した。
- 愛南町内の河内晩柑は、導入して約50年が経過していることから、樹冠拡大に伴い密植状態の園地も多く、防除や収穫等の作業効率が著しく低下している。
- ドローンでの空撮は、密植程度を短時間で調査でき、数値で示せるメリットがあることなどから、園地の樹冠面積や植栽間隔による簡易計測を行い、縮間伐の手法を提案した。
- 園主は「自分の園地を上空から見るのは初めてで、樹が込み合っている状態が一目瞭然。間伐の参考にできる」と話しており、当班は今後も、同JAと連携し河内晩柑の密植改善を行うこととしている。



ドローンで撮影した密植園



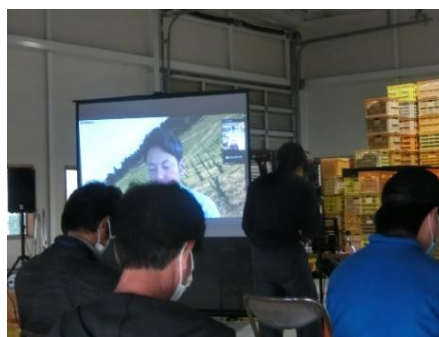
ドローンで撮影した密植解消園

### ■愛南町の認定農業者、青年農業者が合同研修会開催

- 愛南農業指導班は11月16日、愛南町認定農業者協議会と愛南地区青年農業者協議会の合同研修会をリモート形式により開催し、その運営を支援した。
- これは両協議会が、会員の資質向上に向けて企画したもので、約2年振りの開催となる。
- 当日は32人が参加し「不知火の高品質多収技術」をテーマに、鹿児島県の農業者から、かんきつの生理生態に応じたきめ細やかな樹体管理方法について講話。肥培管理を中心とした発表内容に参加者の関心は高く、活発な意見交換がなされた。
- 当班は、今後も組織活動を通じて、地域の核となる認定農業者や青年農業者の育成とかんきつの高品質安定生産を支援していく。



リモート形式による合同研修会



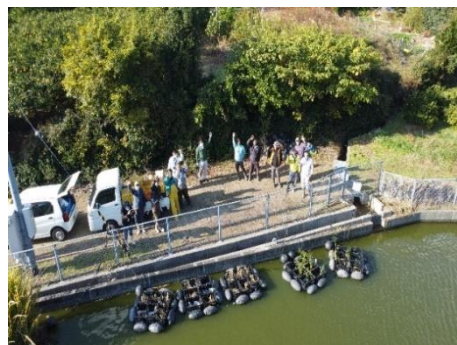
モニターの前で質問を投げかける参加者

## ■青年農業者がマコモダケを用いて農業用ため池の水質改善に取り組む

- 愛南農業指導班は、農業用ため池の水質改善に取り組む愛南地区青年農業者協議会の活動をサポートしており、11月25日、会員10人がため池内にマコモダケの浮島を製作した。
- 愛南町平山地区のため池は、水の出入りが少なく水温が上昇しやすいため、夏場を中心にアオコが発生し、かん水や防除の際に目詰まりの原因となっていることから、「青年農林漁業者ステップアップ活動支援事業」を活用し、昨年からプロジェクト活動として実施している。
- マコモダケの浮島で栄養塩類の吸着と水面に日陰を作ることで水温上昇を防ぐことを期待しており、今後、同会は定期的のため池の水質調査などの効果測定を行い、当班は調査方法等をアドバイスしながら、同会の活動をサポートしていく。



浮島を製作する会員



製作した浮島と会員



## 南予地方局 産地戦略推進室

### ■ゆずの縮間伐による収穫作業の省力効果を確認

- 産地戦略推進室は11月9日、松野町五郎丸のゆず園地で、ゆずの縮間伐による収穫作業の省力効果について調査を行った。
- 鬼北地域は県下有数のゆず産地であるが、古くから栽培されている園地では樹が大型化し、枝が込み合うなどして収穫しにくく、またトゲもあることから作業性が著しく低下している。
- このため、当室では実証ほを設置し、張り出している枝を切り詰め（縮伐）、数年後には伐採すること（間伐）による作業性の改善効果と収量への影響を調査しており、収穫期を迎えた今回、作業時間や果数、収量等を調査した。
- 縮間伐について、生産者からは「樹の間が通りやすくなり、肥料散布や草管理がしやすくなった」「収穫作業で屈む必要がなく、トゲも引っ掛かりにくく楽になった」等の声が聞かれている。
- 今回の調査結果は、今後、JAのゆず部会等を通じて生産者にフィードバックすることにしており、当室では引き続き、縮間伐後の収量及び作業性の経年変化について調査を行い、ゆず栽培における省力化を推進する。



縮間伐区の調査



慣行区

## ■松野町のうめ生産者と新植予定地の状況を確認

- 産地戦略推進室と鬼北農業指導班は11月11日、松野町でうめを栽培している若手生産者と新植予定の園地に出向き、ほ場条件の確認を行った。
- 県下有数のうめ産地である同町では、高齢化等により一時は栽培面積が減少傾向にあったが、近年は若手生産者を中心に新植が進んでいる中で面積は再び増加傾向にあり、当室では産地の将来を担う若手を重点的に相談対応や指導を実施している。
- 今回確認した2ヶ所の作付予定地のうち、一部は非常に地下水位が高く、降雨等により湿害が発生する可能性が高いと考えられたため、事前の排水対策や他品目の栽培を助言し、生産者はこれらを参考に今後の対応を検討することとなった。
- 当室と同班では、引き続き適地における新植の推進や収穫・せん定作業の省力化、リタイヤした高齢生産者から若手生産者への園地継承等を支援し、松野のうめ産地の再興に取り組む。



うめの新植検討園地



土壌の状況（雨後の排水不良）

## 南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

### ■コロナ禍でのみかん収穫 労働力確保で順調に作業が進む

- 地域農業育成室は、西宇和みかん支援隊（構成員：県、八幡浜市、伊方町、西予市、JAにしゅうわ）と連携し、「西宇和版新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」の見直しや、みかん収穫の県外アルバイトや有償ボランティアの確保等、幅広い労働力確保活動を強化した。
- 県外アルバイトは、来県前と来県後にPCR検査を2回実施し、陰性を確認した後、収穫作業と共選での選果作業を開始し、さらに1週間後に抗原検査で安全・安心を確保している。その結果、11月末で県外アルバイト約660人（R2年574人）、ボランティア登録者約480人（R2年327人）と、昨年以上に労働力が確保できている状況にある。
- 11月中旬からは収穫作業のピークを迎えており、当室ではマスクの着用や作業中は密を避ける等、感染予防対策の徹底を指導している。



マスクの着用や、距離をとった収穫を徹底



選果場で作業を行う県外アルバイト

### ■みかん収穫アルバイトの宿泊施設を整備

- 地域農業育成室は、新型コロナウイルス感染症対策として、みかん収穫アルバイト用の宿泊施設に対し、個室化や水回りの改修等を指導してきた。
- その結果、伊方町町見地区では、保育所跡施設を女性専用の宿泊施設に改修し、11月から利用を開始した。また、八幡浜市高野地地区では、女性専用の洗濯場を新設した。改修に当たっては、特に女性アルバイトが快適に過ごせるように、当室がまとめた昨年のアルバイトのアンケート結果を参考に、各地区の雇用促進協議会と協議を重ね、整備を進めた。
- 来県したアルバイトからは、「女性専用の個室施設で快適」「女性専用の洗濯場が嬉しい」「Wi-Fiの整備で、スマホが自由に使えて嬉しい」等の感想が聞かれ、好評である。



保育園跡地を改修した宿泊施設  
(伊方町町見)



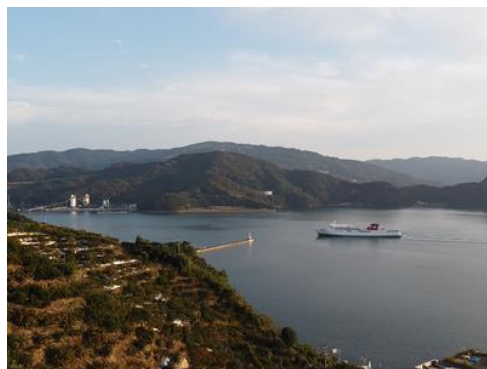
女性専用の洗濯スペースを整備  
(八幡浜市高野地)

## ■首都圏における愛媛県産温州みかん販売促進に向けたPR動画の撮影

- 地域農業育成室は、県産食材の首都圏への販売促進のため、農産園芸課及び県内普及指導員と連携し、量販店の店頭にて放映する愛媛県産温州みかんのPR動画を作成した。
- 丁寧に収穫している様子や伊予弁で購入を呼び掛けるシーンを11月上旬に撮影し、産地の魅力や農家の熱い思いが消費者に伝わるよう工夫した。
- また、愛媛県産の特徴である太陽、石垣及び海からの3つの光を浴びて温州みかんが育つことを強調するため、県内有数の産地である八幡浜市向灘地区の園地を小型ドローンで空撮した。
- 当室は、産地PRを通して、販売促進に努めるとともに消費者に産地の魅力を発信する。



農家による購入の呼びかけ



空撮した八幡浜市向灘地区の園地

## ■八西地区青年農業者連絡協議会が西宇和みかんをPR！

- 地域農業育成室は八西地区青年農業者連絡協議会が実施する西宇和かんきつ産地直送出前授業の活動支援を行った。
- 本授業は青年農業者が小学校を訪れ、かんきつ産地・西宇和をPRしようと平成18年から実施しているもの。
- 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のうえ実施。松山市内の小学校3校を訪れ、映像教材を用いて美味しいみかんの見分け方や、栽培過程、農家の工夫を児童に紹介。また、映像教材の他に家庭まで届くPRグッズとして、西宇和かんきつをアピールしたクリアファイル、西宇和かんきつができるまでのすごろく、西宇和みかんを児童らにプレゼントした。
- 小学生からは、「みかん農家になった理由は？」「一番大変な仕事は？」「農家をしていて嬉しく思うことは？」等、活発に質問があった。
- なお、新型コロナウイルスの影響により訪問できなかった首都圏及び松山市内の小学校については、映像教材及びPRグッズ、旬の果実を送付し、幅広く産地のPRに努めることとしている。



小学生の質問に答える青年農業者

## ■農業高校生がスマート農業技術に熱視線

- 地域農業育成室は11月30日、将来の担い手として期待される農業高校生25人を対象に西宇和地域で実証・検証が進められているスマート農業技術の研修会を実施。
- 当日は、AI選果機による温州みかんの選果を実演するとともに、気象ロボットが収集したほ場環境データを活用した遠隔自動かん水システムや、園地でのコンテナ運搬作業の負担軽減効果が期待される簡易アシストスーツを紹介した。
- 高校生からは、「スマート機器に触れて、体感するよい機会となった」との声が聞かれる等、スマート農業技術に対する認識を深めた。
- 当室は今後も、広く青年農業者や農業女子を対象にスマート農業技術を紹介する研修会を開催するなどし、情報発信に向けた取組を強化していく。



スマート農業への取組状況を説明



AI選果機による温州みかんの選果実演

## 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

### ■いちご生育促進で収量アップをめざす

- 大洲農業指導班は11月12日、大洲市内の観光いちご園において、光合成促進のための炭酸ガス発生装置を設置し、いちごの品質向上に向けた指導を行った。
- これは、管内が盆地特有の頻繁な霧の発生により、日光の当たり始める時間が遅いことから、生育の遅延を防ぎ、光合成活性を高めるために導入したもの。
- 昨年度は、「あまおとめ」で同装置を設置したところ生育が良好であったため、今回、新たに白いちご系の品種へ追加で使用することとした。
- 観光いちご園はコロナ禍で来園客が減少し、直売所への販売が増加傾向にあり、品質向上効果に対する農家期待は大きい。当班は、測定値や生育状況を継続的に調査し、収量増加に向けた技術支援を行うとともに、新たな販売機会の創出や観光イチゴ園のPRなど総合的なサポートを行っていく。



炭酸ガス発生装置について意見交換



ハウス内でCO<sub>2</sub>濃度を測定

### ■有望品目のしょうが栽培に手応え！

- 大洲農業指導班は11月17日、大洲市で新たな有望品目であるしょうがを栽培している農業法人と共に収量調査及び作業性の検討を行った。
- 当班と農産園芸課高度普及推進グループが支援する同法人は、昨年度からしょうが栽培に取り組んでおり、今年度は60aを作付けし、4t/10aの収量を目指している。今年産の出来は上々で芋の肥大も良いことから目標収量はクリアする見込み。
- しょうがは種芋の価格が高く、一般的にはリスクの高い品目と言われるが、法人が種芋供給や販売の中心的役割を担うことで、生産者リスクの軽減につながることや初年度から収入が得られることから若手農業者が新規に取り組む品目として有望視している。
- 一方で、収穫が短期間に集中し、収穫機械利用と人力での掘り取り作業を併用することから労力軽減対策が必要であり、大洲市青年農業者協議会で試験導入しているアシストスーツを使用した実証を検討中。
- 当班及び同グループは、今年産ショウガの収量性や貯蔵性、販売価格などの総合的な検証を行い、地域への波及を見据えた仕組みづくりを支援していく。



機械を利用した掘り取り作業



収穫したしょうが

## ■センサーカメラの情報をもとに、新たにくくりわなを設置

- 大洲農業指導班は、鳥獣害防止対策の重点地区となっている大洲市森山荒平地区で、JA 愛媛たいきのえひめ地域鳥獣管理専門員受講生や大洲喜多猟友会と連携し、イノシシの捕獲に取り組んでいる。
- これは、農地付近に出没する有害獣を捕獲する「攻め」の対策の一環として行っているもので、センサーカメラの映像などから出没地点を特定し、猟友会と協議してハンターがわなを設置した。
- 推定 90 kg 前後とみられる雌 1 頭を撮影した地点では、通り道を絞り込むため、11 月 26 日に、猟友会員と共にカメラの角度を変えるなど設置位置を修正。また、別の地点においては、イノシシの成獣 2 頭が頻繁に 1 つの獣道を利用することが分かったため、ハンターがくくりわなを新たに設置した。
- 当班は、引き続き効率的な捕獲に向け、迅速な情報提供などによる連携を強化し、獣害防止支援に取り組んでいく。



カメラの角度を変え通り道を絞り込む



猟友会員によるくくりわなの設置

## 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

### ■「遊子川地域活性化プロジェクトチーム」が豊かなむらづくり全国表彰で農林水産大臣賞を受賞

- 11月2日、岡山市で開催された農林水産祭むらづくり部門中国四国農政局表彰式で、城川町の「遊子川もりあげ隊」が農林水産大臣賞を受賞した。
- 西予農業指導班では、平成22年からの「遊子川集落づくり計画書」策定当初からトマト農家女性を中心となった特産品開発や「食堂ゆすかわ」の経営（企業組合遊子川ザ・リコピンズ）の活動をはじめ、トマトオーナー制度等について指導を行っており活動の一翼を担ってきた。
- 当班は今後も地域連携活動による経済の活性化やコミュニティ機能の醸成など、地域活性化に向けた活動を支援し、暮らしやすい農村づくりに努める。



中国四国農政局の表彰式



地域活性化の拠点になっている「食堂ゆすかわ」

### ■鳥獣害防止対策の見回り活動で被害防止の認識を高める

- 西予農業指導班は11月7日、西予市宇和町倉谷地区において、地元農業者5人と鳥獣害防止対策の見回り活動を実施した。
- 当日は、鳥獣害対策の基本的な考え方について説明するとともに、地元の狩猟免許取得者が設置した箱わなの状況確認と捕獲実績の報告、防護柵の点検とあわせて設置のポイントや侵入された場合の修復について指導した。
- また、獣道など周辺のイノシシの通り道を確認するとともに、出没状況を確認するためセンサーカメラを設置しイノシシの行動を把握することとした。
- 当班では今後も継続的な活動支援を行い、効果的な鳥獣害対策に取り組んでいく。



防護柵の点検



センサーカメラの設置



## ■ふるさと料理を後世に伝えていくために

- 西予農業指導班は11月16日、西予生活研究協議会と「ときめき交流グリーンフェスタ」を開催し、会員や関係者35人が参加。
- 今年度は「ふるさと料理を後世に伝えるために！」をテーマに、食文化継承に向けて分かりやすく伝えるためのコツを学ぶ研修を行った。
- 研修会では、同会が地元の小中学校で日頃実施している「食文化普及講座」の様子を会員2人が実演したあと、人材育成などを手掛ける松山市の企業より講師を招いて「伝わる話し方のコツ」を学ぶとともに、昼食交流では、各地区が持ち寄った地域食5品をお弁当に詰めてお披露目し、試食による情報交換を行った。
- 会員からは「分かりやすく伝えることは難しいが、実技を通じた研修で話し方のコツがよく分かった」「事前準備をしっかりと、子供たちに伝わるように実践していきたい」といった感想が聞かれ、今後の講座での実践に意気込みを見せていた。
- 今年度は、地域食の調理法や食材となる農産物の栽培状況の動画やレシピ集を制作して食育活動に活用する計画もあり、当班は引き続き伝承活動の支援を行う。



後世に伝えたい料理をお弁当で



「伝わる話し方のコツ」を学ぶ

## ■「南柑 20 号の浮皮軽減対策」 青年農業者のプロジェクト活動を支援

- 西予農業指導班は11月18日、明浜町青年農業者協議会11人を対象に、会員が地域の課題解決のために取り組んでいるプロジェクト活動「南柑 20 号の浮皮軽減対策」の試験園地の巡回を行った。
- 同協議会では、会員4人の園地で植物成長調整剤等の資材や摘果方法による浮皮発生状況について調査しており、現在の状況について会員内で共有するため実施した。
- 当日は、浮皮の発生を目視や触感で確認するだけでなく、摘果程度や防除などの栽培管理についても会員同士で意見を交わし、情報共有するとともに、土壌との関連も確認するため pH・EC 測定用の土壌サンプルの採取も行った。
- 当班では、今後プロジェクト活動による調査結果の取りまとめなど青年農業者の活動に対し継続的な指導を行う。



会員が浮皮の発生状況を確認



土壌分析用のサンプルを採取

## ■いちごの現地巡回でIPMへの取組を支援

- 西予農業指導班は11月18、19日に、JAひがしうわ及び病害虫防除所と連携し、いちご生産者20人を対象に施設の巡回により生育状況や病害虫の発生を確認し個々の管理状況に応じた技術指導を実施した。
- 特に、IPMへの取組についてはミヤコカブリダニ導入者9人の内2人が新規導入であり、天敵の定着状況の把握等について重点的に指導を行った。
- 今年はハダニの発生が多く、追加の天敵チリカブリダニを放飼している生産者もあり、日常管理の中で被害葉拡大状況等をよく観察し化学農薬による応急防除が必要か不明の場合は相談するようアドバイスを行った。
- 当班では、今後巡回の頻度を増やしハダニの発生状況を確認するとともに、天敵利用による防除の普及に向け支援していく。



葉の上で定着する天敵（チリカブリダニ）



天敵導入園地の現地巡回指導

## ■普及事業推進協議会で担い手確保等事例調査

- 西予農業改良普及事業推進協議会は11月30日、農業振興における課題解決の糸口を探るため12人の関係者が参加し先進事例調査を実施した。
- 本調査は同協議会事務局の西予農業指導班が企画したもので、地域での重要課題である「果樹産地の担い手確保」と「水田農業における新たな産地形成」をテーマとして取り上げた。
- 当日は、えひめ中央農業協同組合新規就農研修センターで、就農相談から就農に至るまでのセンターの取組と関係者の役割について、愛媛県農林水産研究所でさといも栽培にかかる情勢等について学んだ。
- 当班では、担い手確保における受入体制の条件整備と、高齢化が進む水田農業の将来のあり方について関係機関との連携を密にし課題解決に取り組んで行く。



研修センターの取組を聞き取り



さといもの機械化体系について学ぶ

## 南予地方局八幡浜支局 産地戦略推進室

### ■「第4回、第5回南予マルシェ」を八幡浜と宇和島で開催！

- 八幡浜支局と南予地方局の産地戦略推進室は、11月8日に八幡浜銀座商店街で「第4回南予マルシェ」を、11月20日に宇和島恵美須町商店街で「第5回南予マルシェ」を開催した。
- 八幡浜では、南予の逸品に選定した「大野ヶ原にんにく組合」の加工品が出品されたほか、前回の南予マルシェで好評であった「道の駅津島やすらぎの里」の地元産果物を使ったフルーツサンドは、混雑を回避するため事前にSNSで予約をとるなど新たな試みも見られた。
- また、宇和島では、商店街からの要望を受けて初めて土曜日に開催。商店街のイベントと合同で実施し、愛南地区青年農業者協議会と西予市の生産者「ichigo TRUCK (イチゴトラック)」が初出店し、ブロッコリーやレモン、シークワサー等の柑橘類、県産米「ひめの凜」、イチゴのスムージーや西予農業指導班と共同開発したいちごのソフトクリーム等を販売。家族連れなどに大人気となったほか、商店街からも手作りのアクセサリなどハンドメイド商品等が販売され、イベントを盛り上げた。
- 両室では引続き感染防止対策を徹底した上で、南予特産の果物、野菜、農産物加工品の充実を図り、イベントの充実・定着に取り組みながら、農産物の販売促進・PRを通じて生産者の所得確保に努める。



大野ヶ原にんにくが初出店（八幡浜）



「ichigo TRUCK」がいちごのスムージーとソフトクリームを販売（宇和島）

## ■富有柿の香港輸出について意識統一！

- 産地戦略推進室は11月16日、輸出事業者「グローウェルジャパン(株)」の来県に合わせて、JA愛媛たいき、ブランド戦略課及び大洲農業指導班と富有柿の香港輸出について協議を行った。
- JA愛媛たいきでは、平成30年から上記事業者を通じて特産の柿の海外輸出に取り組んでおり、昨年は香港に冷蔵富有柿2tを輸出。JAの販路の一つとして定着しつつある。
- 事業者からは、品質の評判が良いことから取扱量の増加要望があったものの、産地側と生育状況と対応可能な時期及び量を具体的に協議した結果、12月に昨年同様の2tに可能な限り上積みした量で取り組むこととなった。
- 当室と大洲農業指導班は、引き続き富有柿の冷蔵貯蔵技術の検討や輸出に関する情報提供等を通じて取組を支援し、産地のブランド力向上を目指す。



柿の生育状況を確認しながら情報交換

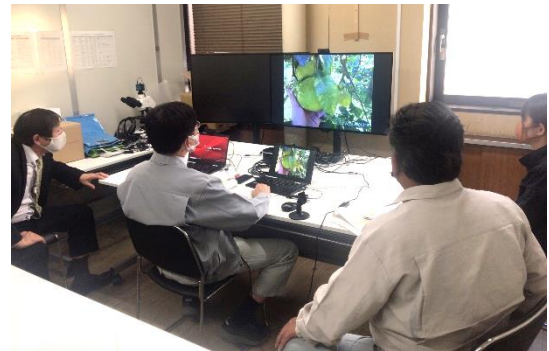
## 農産園芸課 高度普及推進グループ

### ■環境保全型農業調査研究会にて病害診断の基礎を学ぶ

- 高度普及推進グループは、11月24日、県下13拠点と農林水産研究所、みかん研究所をネットワークで繋ぎ、環境保全型農業調査研究会を開催。農林水産研究所の奈尾部長を講師に招き、病害診断の基礎知識の習得に係る講義を行うとともに、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムを活用した病虫害診断の手法についての協議を行った。
- 講義では、「病害診断の基礎と実践」と題して、病害の概念や県内で発生してきた作物の代表的な病害、生理障害と病害の区別やポイント、病害の簡易診断方法等が説明された。なお、講義の様子は、リアルタイム農業普及指導ネットワークシステムのデータベースに映像データとして登録しており、職員ならいつでも内容を確認するために視聴できるようになっている。
- また、同システムを活用した病虫害診断の手法に係る協議では、各普及拠点で実施した遠隔診断の様子が報告され、診断を行うためのポイントやシステムの操作性向上に向けた問題点等が協議された。
- 当グループでは、今後も虫害や果樹病害等を専門とするベテラン職員を招いた講義を予定するとともに、同システムを活用した愛媛県版の病虫害や生理障害の現地映像のデータベース化を進めており、普及指導員の現場指導力の向上を図っていく。



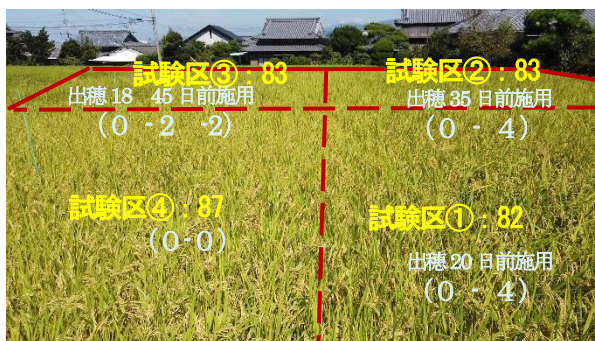
「病害診断の基礎と実践」講義の配信



各普及拠点からの診断映像の紹介

## ■「ひめの凜金賞プロジェクト」収量・食味スコアを調査

- 高度普及推進グループは、ひめの凜の食味向上技術の確立を目指す「ひめの凜金賞プロジェクト」で取り組んだ県下の実証ほ場で収穫された米の食味等の分析調査を行った。
- 各実証ほ場では、堆肥や肥料の施肥量や施用時期等の方法別に試験区を設置。食味分析の結果、窒素成分を栽培期間を通じて抑制し、追肥など行わず堆肥投入による地力窒素を主体とした試験区では、無効分けつが抑制されるとともに米のタンパク質含量率が低くなり、同プロジェクトの目標である、米・食味分析鑑定コンクールの一次審査の基準となっている食味スコア 85 を超えることに成功した。
- また、窒素成分の追肥は、時期、量にかかわらず施用すると食味スコアが低下する傾向が見られ、逆に堆肥を 1t 以上連続して投入すると、生育後期の窒素発現量が多いため食味スコアの低下に関与している可能性が示唆された。
- 更に、過去の同コンクールで入賞しているほ場の米を分析したところ、今年度も高い食味スコアが確認されており、同ほ場では地力窒素を主体とした栽培法に加え、かけ流し等の水管理で水温を低下させ溶存酸素を高く保ったことにより、根の活性を生育後半まで保持できたことが食味の向上につながっていると考えられる。
- 当グループでは、現行の栽培体系を再検討するとともに、高温期には夜間入水や日中は滞水させないなどの対策を指導することにより、ひめの凜の高品質・良食味米生産技術の確立、普及を推進する。



施肥体系の異なる試験区ごとの食味スコア  
( ) 内は施用した肥料の窒素量 (kg/10a)



試験ほ場の茎数の推移  
(最高スコア 87 の④は無効分けつが少ない)

## ■かんきつ基盤整備ほ場で営農開始に向けた技術指導と園地改良技術を実証

- 高度普及推進グループは、松山市下難波地区の基盤整備ほ場で農業法人と連携して、11月に造成が完了し営農を開始する工区において、基盤整備後の土壌改良実証を開始した。
- 同実証では、これまでに調査、実証した知見を基に、初期の堆肥投入量を大幅に増加させるとともに、冬季でも生育する緑肥作物のムギを全面に播種することにより、緑肥として栽培しながら地表面に広く生育させて冬春期の降雨による土壌流亡を防止している。
- また、既に土づくりの最終段階となっている工区では、ドローンを使った航空写真を基にしたほ場全体のレイアウト図面の作成により、ハウスの建設や苗木の植栽位置を同法人に提案しており、ハウス建設前の早い段階から苗木の植栽位置を中心に堆肥や土壌改良資材を集中して施用することにより、これまで以上に効率的な土壌改良を実施することが可能となっている。
- 当グループは引き続き、基盤整備地における緑肥作物の栽培等による土壌改良や流亡対策技術を検証し、基盤整備後でも早期に高い収益が確保できる園地づくりを支援する。



堆肥の大量投入



ハウス建設予定のレイアウト

## ■「さくらひめ」の閉鎖型システムで育苗した苗の生産力を検証

- 高度普及推進グループは11月11日、松山市の栽培ほ場においてデルフィニウム「さくらひめ」の閉鎖型システムで育苗した苗を定植し、苗質の差が生育に及ぼす影響を明らかにする栽培実証を開始した。
- 同システムで育苗した苗は、通常ハウス内で育苗した苗よりも展開葉数や根量も多く、セル内に完全に根巻きした状態となっていた。
- また、現在開花期を迎えている9月に定植した同システムで育苗した苗は、高冷地で育苗した苗に比べ旺盛な生育となっており、花数や枝数が多いなどの生育差が見られている。
- 当グループでは、同システムで育苗した苗の生育状況や、年内に収穫を迎える県下の生産ほ場の様子を映像で収録するとともに、次回の普及指導員花き調査研究会ではその映像を基に生産技術の検討を行う予定で、引き続き「さくらひめ」の収益性を確保するため生産技術の確立を目指す。



閉鎖型システムで育苗した定植苗



閉鎖型システムで育苗した苗の定植



## ■大洲市で新規導入されたしょうがの収穫調査を実施

- 高度普及推進グループは11月25日、しょうがの栽培技術の確立に向け、大洲市で農業法人が栽培実証を行っている露地しょうがの収穫調査を実施した。
- 調査の結果、大幅な減収につながる根茎腐敗病等の発生は確認されず、一般的な定植時期から1ヶ月以上遅れた植付けになったにも関わらず、収量は約3.5～4t/10aと推計され、肱川沿いの排水性の高いほ場での優れた生産性を確認した。
- 収穫したしょうがは、一定の温度、湿度が保たれる専用の貯蔵庫で長期貯蔵されており、今後当グループでは貯蔵性の確認も行う。
- また、同法人は、今年度「普及組織先導型革新的技術導入事業」により新しょうが栽培に適した低コスト型のパイプハウスを導入することとしており、当グループは引き続き、根茎腐敗病等の発生抑制や貯蔵性の向上に向けた栽培技術の確立等を図ることにより、県産しょうがの周年供給体制の確立を目指す。



株の掘取調査



重量測定(大きいもので約2kg)

## ■いちご高設栽培における培地内の溶液濃度の簡易的な測定方法について検証

- 高度普及推進グループは、いちごの高設栽培における適正な養液管理の確立に向け、簡易に培地内の肥料濃度を現場でリアルタイムに測定できる方法の検証を開始した。
- 当グループによるこれまでの調査から、いちごの高設栽培では、生育や気象の状況等により、養分吸収が緩慢になると養液濃度が高まり培地内に過剰に養分が集積するほか、逆に養分吸収が旺盛になると養液濃度が極端に低下し、生育に大きな影響を及ぼす場合があることが確認されている。
- 現地では、日々変化している培地内の土壌溶液をできるだけ簡易かつ効率的に採取するため、これまでのポラスカップ（素焼管）に代わり、イオン吸着が少ない細いファイバー製の管から採取する方法を採用しており、株ごとや栽培ベッドの点滴チューブ直下、株間、ベッドの縁などの測定場所による養液濃度の変化についても検証を行っている。
- 当グループは、引き続き土壌溶液の簡易かつ効率的な測定方法を検証するとともに、調査結果を普及指導員野菜調査研究会にて報告することとしており、県下の高設いちご栽培における高収量を目指した養液管理方法の確立を図る。



栽培ベッドの溶液採取位置を変えて検証



土壌溶液採取器によるベッド縁側の採取

## ■普及指導員の流通・経営、6次産業化技術に資するための調査研究会を開催

- 高度普及推進グループは11月8日に、流通・経営、6次産業化の指導に係る普及指導員の技術を高めるため、普及指導員流通・経営、6次産業化調査研究会を開催した。
- 当日は、リモートで、東京の食品卸売業者の島商（株）の営業主任石田万理氏を講師に招き（県東京事務所からリモート出演）、食品卸売業からみた売れる商品づくりについて47人が講習を受けた。
- 講習では、販売店の性質を分析したうえでの商品づくりや提案、価格設定の際のポイント等の具体的な説明を受け、商品づくり、流通販売の知識を深めた。
- また、講習終了後には、令和3年度普及先導型戦略的産地育成事業で実施している「コロナ禍での売れる商品づくりプロジェクト事業」の中間報告会を行い、今後の普及指導員の活動や県内の直売所で販売する商品のブラッシュアップの内容について協議、指導した。
- 今後も、プロジェクト事業や講習、個別指導等を通じ、流通・販売、6次産業化の専門的な技術を指導し、資質を向上させていく。



受講する普及指導員

### 結果<フルーツソース>

・新商品開発に伴う販路開拓拡大



プロジェクトで開発した新商品（八幡浜）

## ■首都圏流通・販売調査で使用するPR動画が完成

- 高度普及推進グループは11月26日と29日に、首都圏流通・販売調査の調査班員（若手普及指導員）とともに、調査で使用するPR動画の最終チェックを行うとともに、12月と2月に行う量販店での調査の内容について協議・指導を行った。
- 動画は1本2分弱にまとめられ、調査対象品目である「かんきつ」は、「温州みかんの産地紹介」「みかんの知識を深める面白動画」「紅まどんなの紹介」の3本、「さといも」は、「収穫されるまでの園地と調理の紹介」「さといも早割対決」の2本の、計5本が11月末に完成した。
- また、12月の店舗調査は、平日の一定の時間内における愛媛コーナー、PR動画設置前と後の販売数や来客数、愛媛産品を調査し、PR動画の効果を検証することとした。
- なお、PR動画は12月10日から年末まで、首都圏の青果店ユナイテッドベジーズ西葛西店、薬田台店、白井店の愛媛コーナーで放映するとともに、県YouTube公式チャンネル「ひめテレッ！」でも掲載し、県産品のPRを行う予定。



かんきつ班の動画チェック(11/29)



かんきつPR動画



さといもPR動画

## 農産園芸課 企画調整グループ

### ■新規採用農業職職員を対象に農業大学校派遣研修を実施

- 企画調整グループは、新規採用農業職職員 16 人に対して、農業大学校派遣研修（後期）を実施した。
- 同研修は、普及職務の理解を深めるとともに、農業職としての実践的な技術や知識を身に付け、普及指導活動等の業務を円滑に推進するために実施したもの。
- 5 日間の研修では、県庁各課及び試験研究機関に在籍している農業職の若手先輩職員と、業務内容や求められる資質等について意見交換等を行った。
- また、講義では農林水産研究所の研究者から土壌調査方法等を研修するとともに、農業職 OB を講師として、本県農業行政の歴史等を学ぶなど、農業職として求められる姿勢や心構え等について理解を深めた。



農業職 OB から本県農業行政の歴史等を学ぶ



土壌調査方法実習

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543